

備北地域連携基盤整備調査			
調査主体	中国地方整備局		
対象地域	広島県三次市、庄原市、世羅町 島根県雲南市、奥出雲町、飯南町	対象となる 基盤整備分野	河川・都市公園

1. 調査の背景と目的

備北・雲南地域では、国営備北丘陵公園や江の川水系三川合流部の整備事業、中国横断自動車道尾道松江線等の大型プロジェクトが集中的に実施されている。特に、尾道松江線は、備北・雲南地域においては、平成23年度～平成26年度にかけ、順次、供用開始となっており、沿線の自治体においても様々な取組が動き始めている。

このような状況のなか、中国地方の中山間地域であり、同様の課題を共有する備北・雲南地域周辺において、尾道松江線等のプロジェクトの整備効果をより発揮させ、広域連携や官民連携による地域活性化を図ることができる施策メニューを検討することを目的とする。



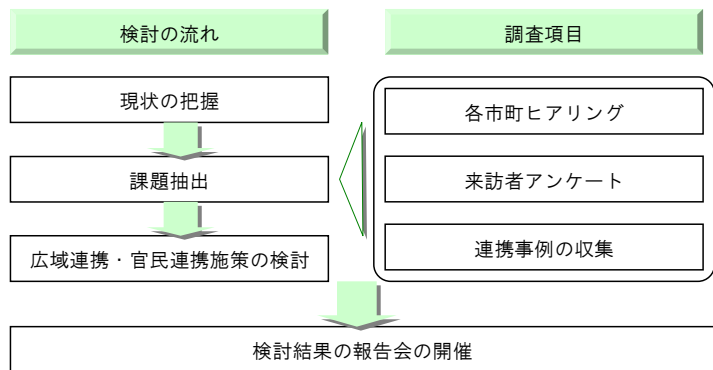
対象地域

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

広域連携や官民連携による地域活性化をめざした施策メニューの検討に向け、市町ヒアリングや来訪者アンケート、広域連携事例の収集等を行った。

また、構成市町や県（島根県・広島県）、国（各河川国道事務所）のメンバーを一堂に会した報告会を開催し、今後の具体的な広域連携・官民連携を進めていくための契機とした。



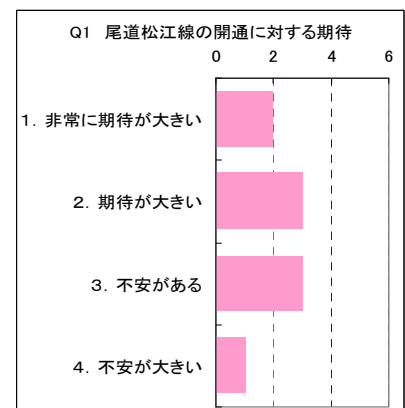
(2) 調査結果

1) 各市町ヒアリング

市町ヒアリングでは、尾道松江線の開通を活かした広域連携・官民連携の取組状況、連携の課題等について確認した。

◆尾道松江線の開通に対する期待（複数回答）

- ・尾道松江線の開通に対しては、「期待」と「不安」の両面をあげる市町が半数を占める。



- ・期待としては、「交流人口の拡大」や「生活利便性の向上」、不安としては、「国道 54 号の交通量減少による地域活力の低下」や「尾道市・松江市という観光地に挟まれ、通過地となる不安」があげられた。

◆連携の必要性

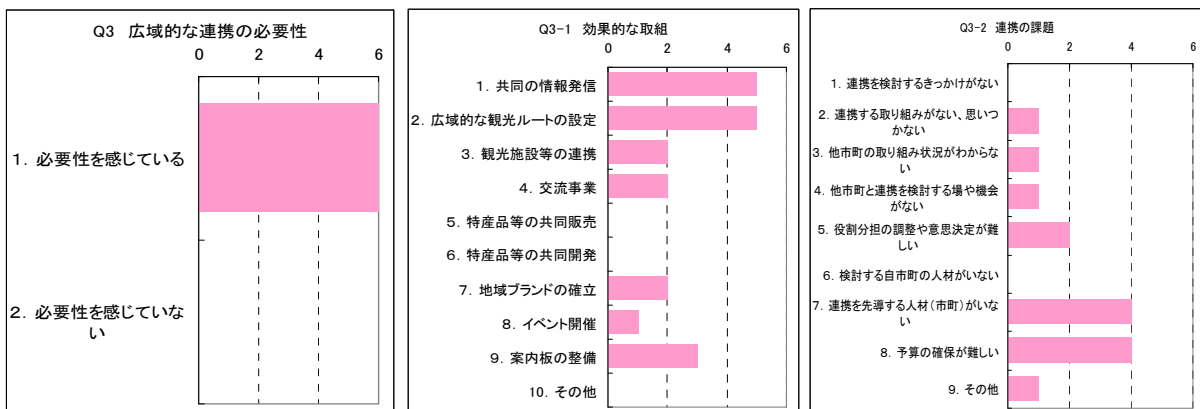
- ・全ての構成市町が広域的な連携の「必要性を感じている」と回答。

◆効果的な連携の取組（複数回答）

- ・効果的な取組としては、「共同の情報発信」と「広域的な観光ルートの設定」があげられている。
- ・現在、連携による取組が行われていない「案内板の整備」が新たな取組としてあげられている。

◆連携を進めるに当たっての課題（複数回答）

- ・連携の課題として、「連携を先導する人材（リーダーとなる市町）がいない」と「予算の確保が難しい」があげられている。
- ・「連携を先導する人材（リーダーとなる市町）がいない」に関しては、複数の市町の連携や県境を越えた連携には、県や国に先導役を期待する声がみられた。

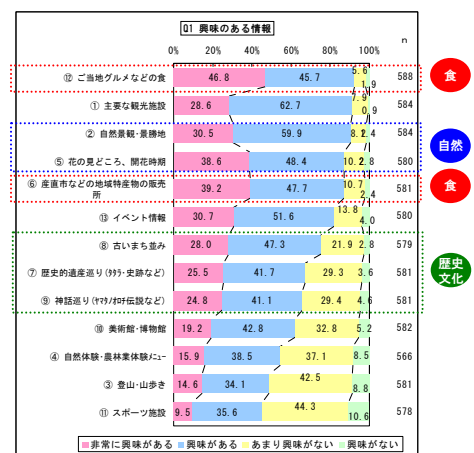


2) 来訪者アンケート

備北・雲南地域周辺の活性化に向けた検討において、地域の魅力や必要とされる連携方策等の把握を行うため、道の駅や観光施設等にて、調査員による聞き取りアンケート調査を実施した。なお、総回収数は 590 票となっている。

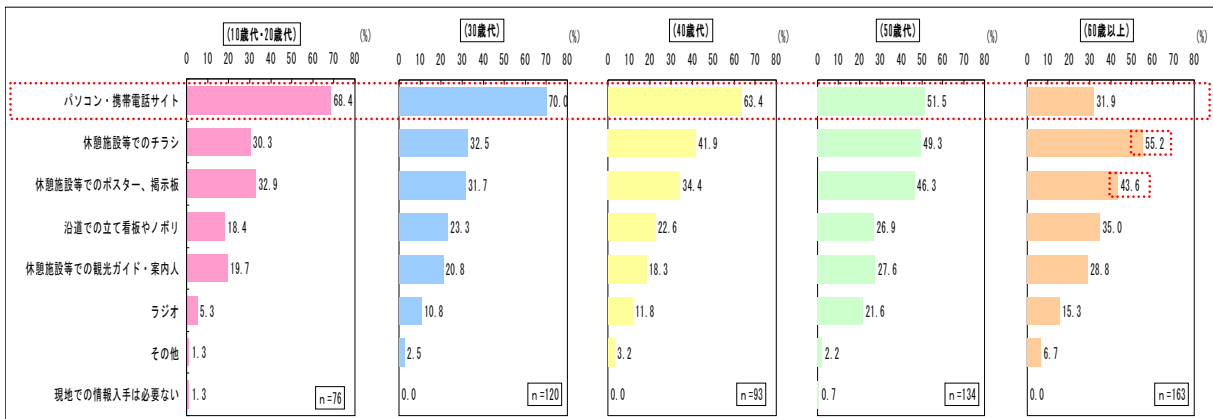
◆備北・雲南地域の興味のある情報

- ・興味のある情報としては、「ご当地グルメ」や「産直市などの地域特産物の販売所」などの“食”、「自然景観・景勝地」や「花の見どころ、開花時期」などの“自然”が上位にあげられている。
- ・高齢年齢層では、「古いまち並み」や「歴史的遺産巡り」などの“歴史・文化”に対する興味が高くなる傾向がみられる。



◆現地のリアルタイム情報の入手に効果的な情報提供手段（複数回答）

- ・効果的な情報提供手段としては、「パソコン・携帯電話サイト」、「休憩施設等でのチラシ」、「休憩施設等でのポスター、掲示板」が上位にあげられている。
- ・年齢別の傾向をみると「パソコン・携帯電話サイト」は若年層ほど高く、60歳以上では「休憩施設等でのチラシ」や「休憩施設等でのポスター、掲示板」が上回る。
- ・「現地での情報入手は必要ない」との意見はわずかとなっている。



◆備北・雲南地域の魅力、イメージ

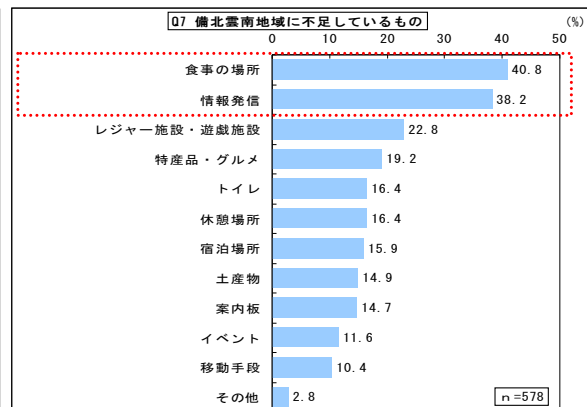
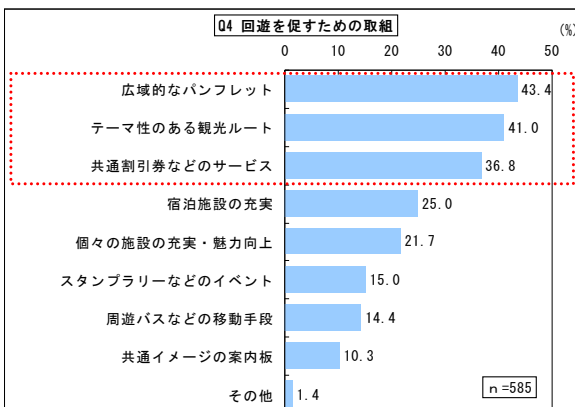
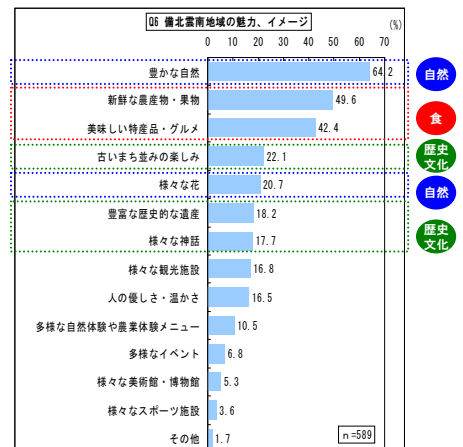
- ・魅力、イメージとしては、“自然”や“食”、“歴史・文化”に関連する項目が上位にあげられている。

◆備北・雲南地域の回遊を促すための取組（複数回答）

- ・地域の回遊を促すためには、「広域的なパンフレット」、「テーマ性のある観光ルート」、「共通割引券などのサービス」が上位にあげられている。

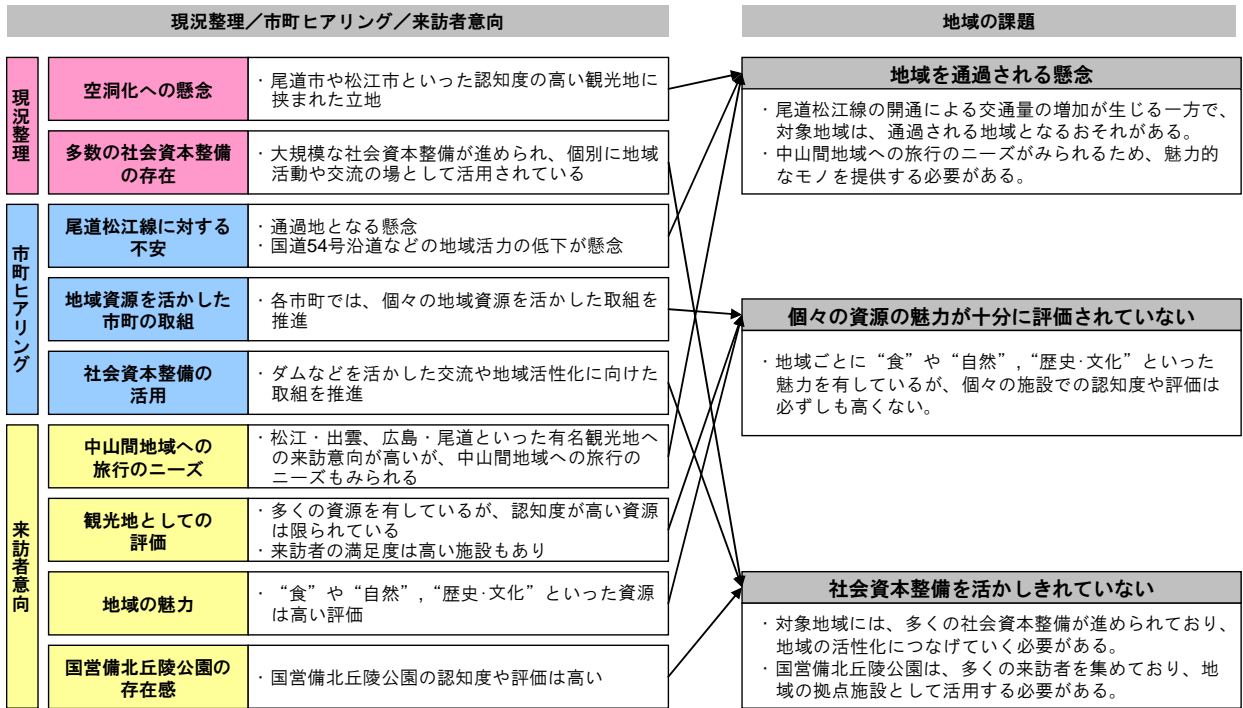
◆備北・雲南地域周辺に不足しているもの（複数回答）

- ・地域の回遊を促すためには、「広域的なパンフレット」、「テーマ性のある観光ルート」、「共通割引券などのサービス」が上位にあげられている。



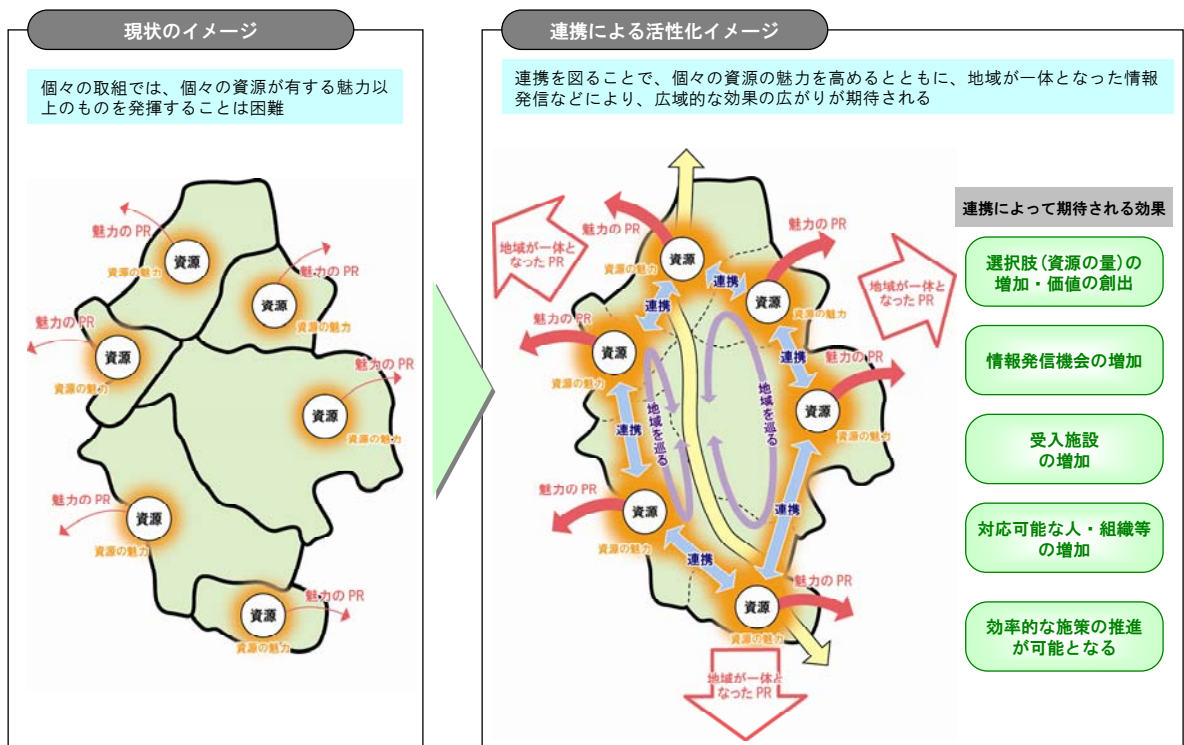
3) 備北・雲南地域周辺の課題の抽出

現況整理・市町ヒアリングの結果・来訪者意向を踏まえて、備北・雲南地域周辺の広域連携・官民連携に関する課題の抽出を行った。



4) 課題の解決に向けた広域連携・官民連携の必要性

新たな地域の連携軸となる尾道松江線の開通を活かし、地域の課題解決を図っていくため、広域連携・官民連携の取組を進めていく。



5) 備北・雲南地域の活性化に向けた基本方針

広域連携・官民連携を図りながら、地域が抱える課題を解決し、地域の活性化に取り組んで行くための基本方針を以下のように定めた。



6) 備北・雲南地域の活性化に向けた連携方策の検討

基本方針 1-1 個々の資源の連携（ストーリー性を持たせる）により魅力を高める

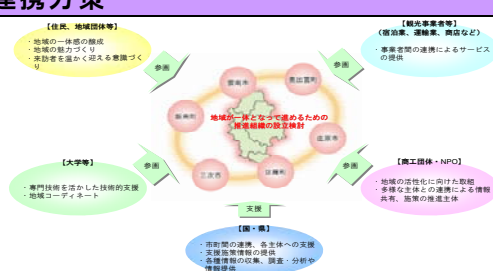
基本方針	連携方策
<p>“自然”をキーワードとした連携</p>	<p>◆自然資源、体験メニューなどの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の豊かな自然資源の連携により、四季を通じて楽しむことのできる対象地域のイメージ形成を図る。また、対象地域の多様な自然体験や農業体験メニューの連携を図り、修学旅行などの団体客の受入などを検討する。 <p>◆花観光農園などの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 国営備北丘陵公園をはじめ、花観光農園などの資源の連携により、花の見ごろ、見どころの情報の一元化を検討する。 <p>他都市の事例 住民参加の『のとクリスマスツツジオープンガーデン』</p> <ul style="list-style-type: none"> 『のとクリスマスツツジオープンガーデン』として、個人の庭にあるクリスマスツツジの公開を行っている。 オープンガーデン情報が掲載されたパンフレットを作成している。  <p>参考URL : http://www.okunoto-ishikawa.net/modules/notoiro/</p> <p>◆“エコ”のイメージを強調するツーリズムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> EV充電器などの施設（既存・計画）を活かし、豊かな自然のイメージを発信する“エコツーリズム”を検討していく。
<p>“食”をキーワードとした連携</p>	<p>◆連携による地域の食のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な地域の食材の連携により、中山間地域の食のフルコース（様々な選択肢）を提供できる体制づくりを検討する。 米-1グランプリやたまごかけごはんシンポジウム等の開催実績を活かし、地域全体での“食”のイベント開催を検討する。 <p>他都市の事例 琴浦ぐるめストリート</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県琴浦町では、国道9号に並行して走る山陰自動車道の開通に対して、国道9号沿いを「琴浦グルメストリート」と名付け、地域が一体となって魅力を発信している。 B級グルメ「琴浦あごカツカレー」の発表や食のイベント開催などに取組んでいる。  <p>参考URL : http://www.kotoura.jp/index.html</p> <p>グルメストリートのマップ ラーメンや魚介類、スイーツの食べ比べイベントを開催</p> <p>◆連携による多様な販売機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町が進めている特産品の開発等を踏まえつつ、道の駅や産直施設間の連携による、品揃えの充実やロットの確保を検討する。
<p>“歴史・文化”をキーワードとした連携</p>	<p>◆テーマによる行政区域・県境を越えた資源の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 「たたら」や「神話・伝説」などのテーマに基づく連携により、個々の資源の魅力の向上や共同の情報発信を検討する。

基本方針	連携方策
<p>地域に来てもらうための情報発信</p>	<p>◆県境を越えた連携による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在も、広域的な連携のもとで、パンフレットの作成や情報サイトの運営が行われているが、県境を越えた情報発信の取組は少ない。県境の枠組みを超えた備北・雲南地域周辺が一体となった連携により、共同の情報発信を進めていくことを検討していく。 <div data-bbox="619 533 1350 922" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">他都市の事例 県境を越えた連携による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都城広域定住自立圏を構成する宮崎県都城市、三股町、鹿児島県曾於市、志布志市の3市1町が、九州新幹線等を利用した誘客を目的に、県境を越えた圏域の魅力を一体となって発信する観光パンフレット「旅のごちそう」を共同で作成。 ・郷土料理の作り方や焼酎、食・農・自然・アートの体験メニュー等の紹介を行っている。  <p style="text-align: center;">参考URL：http://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/mkj/kanko/pdf/tabilogochisou_S-3.pdf</p> </div> <p>◆尾道松江線の開通を活かしたPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾道松江線の開通を契機に、地域が一体となったイベント開催などを行うことで、地域の知名度をあげていくことを検討していく。 ・特に、現在においても大きな集客力を有する国営備北丘陵公園を活用したイベント開催を検討する。
<p>地域を回ってもらうための情報発信</p>	<p>◆地域全体の情報発信拠点としての道の駅の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画中の道の駅等も含め、道の駅の連携強化を促しながら、地域全体の情報発信拠点としての機能発揮に向けた取組を検討する。 <div data-bbox="619 1406 1362 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">他都市の事例 津軽半島における『道の駅』の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「津軽半島『道の駅』の会」は、「奥津軽『未知情報』発信事業」を契機に設立され、津軽半島にある9つの「道の駅」（なみおか、十三湖高原、いまべつ、もりた、浅虫温泉、みんまや、こどもり、つるた、たいらだて）が連携して、地域資源の調査、発掘及び情報発信を行っている。 ・相互の特産品等の販売や商品開発などにも取組んでいる。  <p style="text-align: center;">参考URL：http://www.pref.aomori.lg.jp/kotsu/build/kennsetsu_shienn_michinoeki.html</p> </div> <p>◆多様な情報提供手段の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内では「現地の回り方」がわかる情報として、チラシやポスターなどの紙媒体、パソコン・携帯電話等の情報技術を活かした提供手段の導入など、利用者の状況にあわせた情報提供手段の検討を行う。

基本方針 1-3 連携した資源を巡ってもらう

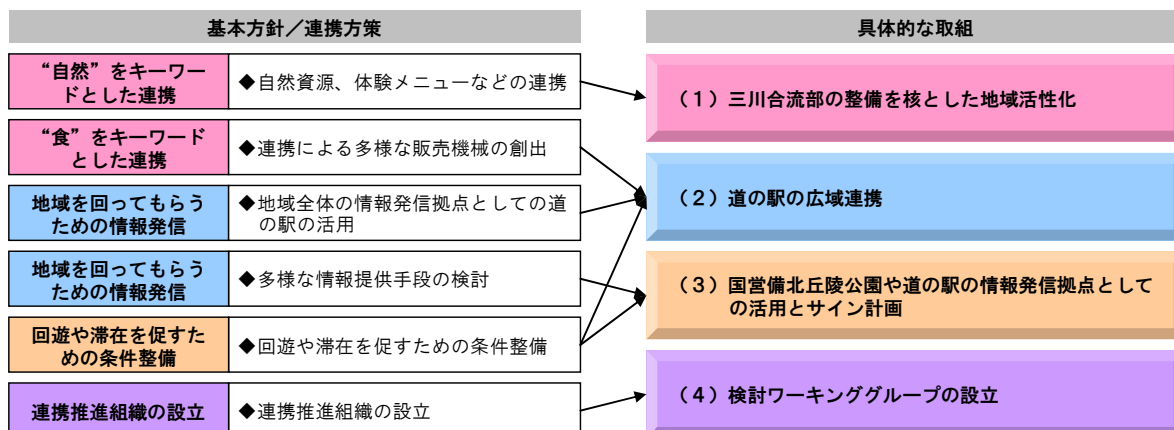
基本方針	連携方策
<p>回遊や滞在を促すための条件整備</p>	<p>◆回遊やを促すための条件整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内板や回遊手段の確保など、回遊を促す条件整備を検討する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>他都市の事例 鳥取自動車道におけるサイン計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取自動車道における沿道の休憩施設（道の駅等）の情報発信として、サイン計画やガイドマップの作成を行っている。 ・サイン計画に関する利用者意向の把握のため、地域活動団体である「因幡街道交流会議」が中心となった社会実験を実施している。 </div>  <p>社会実験に関する参考URL：http://www.inabakaido.jp/index.html</p> <p>◆備北丘陵公園を核とした滞在型観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 4 月に全面開園する備北丘陵公園は、年間約 50 万人の観光客を集めていることから、宿泊機能（オートキャンプ場）を活かした地域の滞在型観光の拠点としての活用を図る。 
<p>巡ってもらう楽しみ・メリットを提供する</p>	<p>◆巡ってもらう楽しみ・メリットの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設間の連携を図ることで、回遊を促すスタンプラリーなどのイベント開催や共通割引券の導入などによる来訪者へのメリット享受などを検討する。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>他都市の事例 県境をまたいだ共通割引券</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信越高原地域の関係自治体（長野県長野市、信濃町、飯綱町、新潟県妙高市）及び観光協会で構成される「信越高原連絡協議会」では、「わくわく割引チケット」として、信越高原各エリアの施設で使用できる共通割引券を作成。 </div>  <p>参考URL：http://www.shinetsukogen.jp/index.shtml</p>

基本方針 2 地域が一体となった取組に向けた体制づくり

基本方針	連携方策
<p>連携推進組織の設立検討</p>	<p>◆連携推進組織の設立検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な連携を進めるための推進体制の構築を検討する。 
<p>地域の一体感を高める</p>	<p>◆地域内の一体感を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備を活かしたイベント等の開催における相互連携を図るなど、地域の一体感を高める取組を検討する。
<p>国や県の支援制度の活用</p>	<p>◆国や県の支援制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県の支援制度の活用を図りながら、効果的な連携を進めていく。

3. 基盤整備による効果

広域連携・官民連携による地域活性化をめざした基本方針・連携方策から、社会資本整備の効果を活用した具体的な取組を以下のように検討した。



(1) 三川合流部の整備を核とした地域活性化

三次市街地中心部で、江の川、馬洗川、西城川の三川が巴状に合流する一体は「三川合流部」と呼ばれ、散策、水遊び、レクリエーション等の市民の憩いの場や自然とのふれあいの場となっている。また、鶺鴒や花火大会などの会場として、多くの来訪者が訪れている。

このような中で、河川の魅力を最大限に引き出し、地域の景観や歴史、文化と触れ合う交流拠点となるような賑わいのある水辺環境を創出するため、平成21年度に「三次市三川合流部周辺河川環境整備計画」を策定し、三次市、地域住民、団体及び国が連携して河川整備を進めている。

今後も官民連携の先導的な取組として、周辺観光施設と一体となった活性化に向け、役割分担を図りながら環境整備と活用を図っていく。

役割分担	取組
市 (三次市)	・堤防照明施設の設置（H23.4 完了）などの取組により、安全な河川回遊空間の形成に努める。
国	・河川管理や花火大会などの利用を考慮したベンチ型の護岸整備や管理用通路の整備に努める。
民間 (（社）三次市観光協会)	・鶺鴒や花火大会等の更なる発展をめざす。 ・三次駅周辺整備事業による観光情報発信施設の整備とあわせて、三次駅周辺や周辺観光施設等との連携を図り、観光振興に努めていく。



護岸整備イメージ

(2) 道の駅の広域連携

対象地域には、数多くの道の駅が立地し、多くの来訪者を迎え入れている。また、尾道松江線の開通にあわせて、三次市、庄原市、雲南市にて、新たな道の駅の計画が進められている。

既存の道の駅では、地域農産物の販売やプライベートブランドの開発・販売、バイキング料理やそばなどの特徴的な食事の提供等、個々の施設ごとに特徴のある取組が進められている。また、国道9号沿いや雲南地域の道の駅では、各施設が連携した取組としてスタンプラリーなどが行われている。

尾道松江線の開通により、来訪者のアクセスルートが大きく変貌を遂げるため、計画中の尾道松江線沿いの道の駅と国道54号沿いの2つの軸を中心とした道の駅の連携強化を図り、地域全体への回遊を促す施策に取組んでいく。

また、道の駅の連携強化を進めるための条件整備として、尾道松江線から道の駅への円滑な誘導を促す案内標識等の整備を検討していく。

対象地域内の道の駅		
市町	施設名	備考
三次市	ゆめランド布野	
	ふおレスト君田 (新規)	計画中
庄原市	リストアステーション	
	遊YOUサロン東城 (新規)	計画中
世羅町	—	
雲南市	掛合の里	
	さくらの里きすき	
	おろちの里 (新規)	計画中
奥出雲町	奥出雲おろちループ	
飯南町	酒蔵奥出雲交流館	
	傾原 赤井高原	

◆高野町の道の駅の基本設計案（庄原市）

- レストランや軽食コーナーを設け、庄原産の米やソバで作ったむすびなど、地域食材メニューを提供
- 敷地内に、雪室を設置し、雪で覆った冷凍庫に貯蔵した酒や野菜を販売
- 地域への回遊を促すために案内の配置を検討



7月着工
12年度末オープン予定



対象地域内の道の駅の立地（計画含む）



路外の道の駅への案内表示事例（鳥取自動車道）

役割分担	取組
市／県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画中の道の駅の整備推進 ・ 尾道松江線から道の駅への誘導のための案内板の整備 ・ 道の駅の相互連携施策の検討の支援・調整
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾道松江線上への案内標識の整備検討
民間 (道の駅・観光施設等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅の運営 ・ 道の駅の相互連携施策（共同販売、特産品開発等）の検討・実践

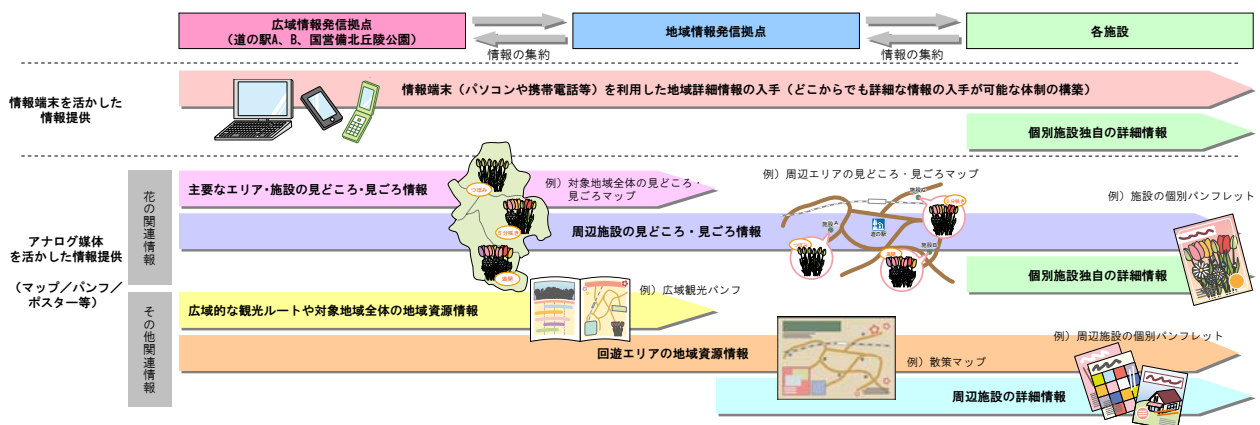
(3) 国営備北丘陵公園や道の駅の情報発信拠点としての活用とサイン計画

魅力を高めた資源の情報発信を行うため、尾道松江線沿いに計画されている道の駅や集客力の高い国営備北丘陵公園等の施設間における情報ネットワークの形成を図る。

◆情報発信拠点の活用

尾道松江線と国道 54 号の 2 つの軸に立地する道の駅、国営備北丘陵公園を広域情報発信拠点とし、周辺の道の駅や主要な観光地を地域情報発信拠点として位置づけ、相互連携を図りながら地域全体の活性化につながる情報発信を進める。

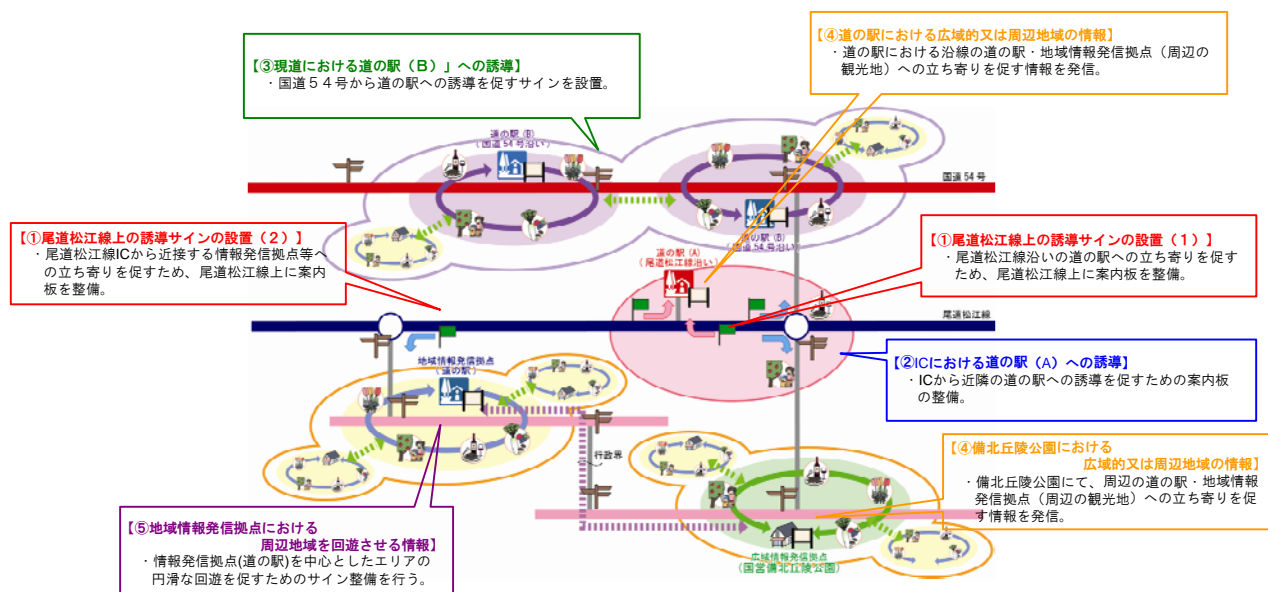
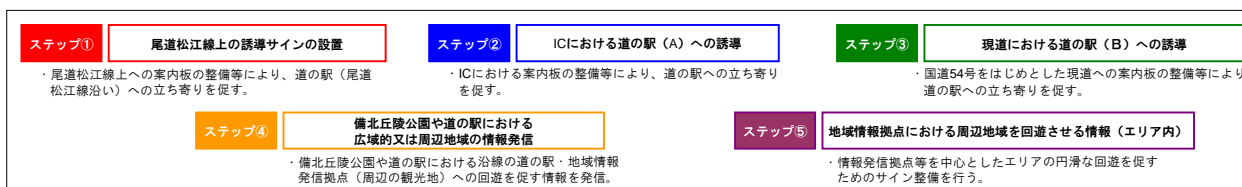
機能	取組	施設の候補
広域情報発信拠点 道の駅(A) (尾道松江線沿い)	<ul style="list-style-type: none"> 尾道松江線の利用者に対して、対象地域全体の地域情報の発信を行う。 あわせて、周辺エリアや IC 付近の地域情報の発信、IC の近隣に位置する地域情報発信拠点等の情報発信を行う。 	道の駅(計画) ・三次市内 ・庄原市内 ・雲南市内
広域情報発信拠点 道の駅(B) (国道 54 号沿い)	<ul style="list-style-type: none"> 国道 54 号の利用者に対して、対象地域全体の地域情報の発信を行う。特に、国道 54 号沿いの情報発信拠点との連携を図りながら、国道 54 号を軸とした回遊を促すための情報発信を行う。 あわせて、周辺エリアの地域情報の発信、近接する地域情報発信拠点等の情報発信を行う。 	道の駅 ・ゆめランド布野 ・赤来高原 ・頓原 ・掛合の里 ・さくらの里きすき
広域情報発信拠点(C) (国営備北丘陵公園)	<ul style="list-style-type: none"> 既存の集客力を活かした情報発信拠点として、大規模イベント時等における地域情報の発信を行う。 	国営備北丘陵公園
地域情報発信拠点 (観光地等)	<ul style="list-style-type: none"> 周辺エリアの詳細な地域情報の発信を行う。 あわせて、近接する地域情報発信拠点等の情報発信を行う。 	各道の駅 既存集客施設 など
各施設	<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設のパフレットの相互設置を行うなどにより、周辺エリアの回遊を促す工夫に努める。 	各施設



各機能における情報発信手段のイメージ（花をテーマとした回遊のケース）

◆情報発信拠点の活用を促す条件整備

情報発信拠点の活用を促すための条件整備として、情報発信拠点等への立ち寄りを促すためのサイン計画（総合案内板・個別案内板の整備等）に取り組む。



サイン計画のイメージ

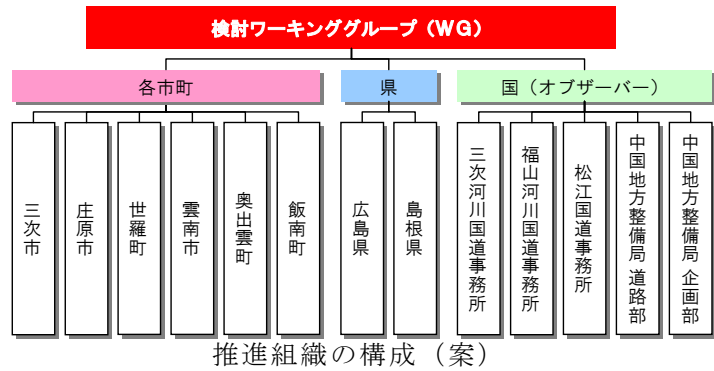
役割分担	取組
市／県	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアごとのサイン（総合案内板・個別案内板）の整備 ・行政界をまたぐ観光ルート間のサイン計画の調整、整備 ・施設間の情報ネットワーク体制の構築に向けた検討の支援・調整
国	<ul style="list-style-type: none"> ・尾道松江線上への案内標識の整備検討 ・施設間の情報ネットワーク体制の構築に向けた検討の支援 ・備北丘陵公園・道の駅・周辺観光施設等との連携方策の検討・実践の支援
民間 (道の駅・観光施設等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設間の情報ネットワーク体制の検討・構築 ・情報ネットワークシステムの運用の検討・実践

(4) 検討ワーキンググループの設立

平成 26 年度に尾道松江線が全線供用するなかで、沿線自治体による尾道松江線を活かした地域活性化の動きがみられる。しかしながら、現在の地域の取組は、市町内での取組に限定されており、尾道松江線の整備効果を十分受け止め、国道 54 号沿線の地域衰退を低減するためには、広域的な連携が必要である。

このような中で、地域づくりを担う行政職員に広域連携の必要性を認識してもらうとともに、今回検討した方策・支援策の実現を図るためには、連携施策の推進役を担う組織の設立が重要となる。

そこで、各市町及び県（島根県・広島県）の担当者を中心とし、国がオブザーバーとして参加する検討ワーキンググループの設立を行う。

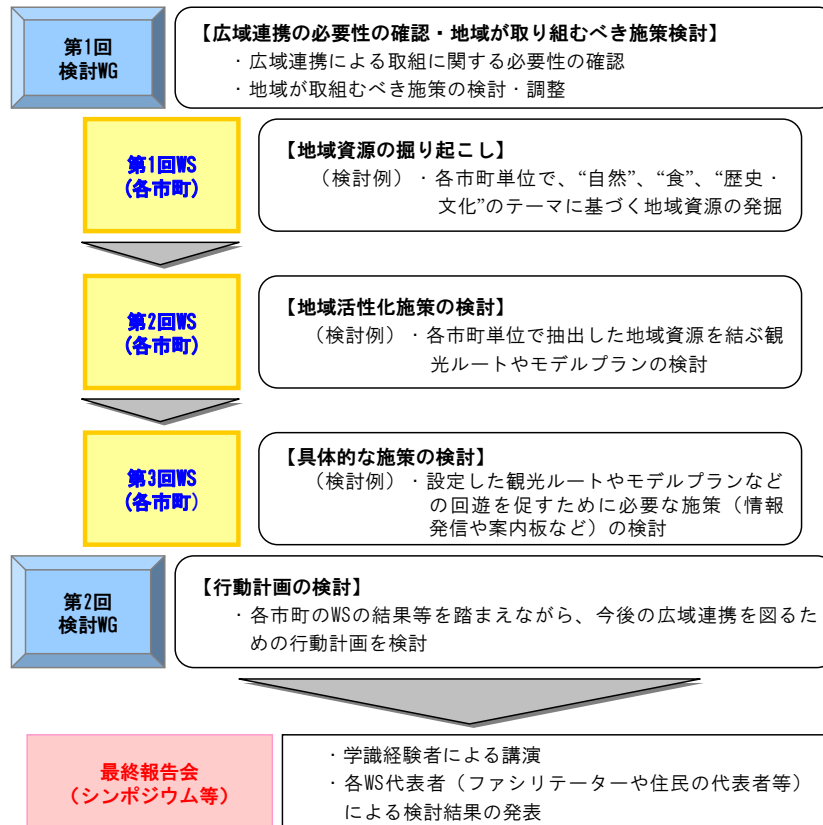


4. 今後の課題

広域連携・官民連携による地域づくりを進めていくためには、検討段階から住民の参画を促すことが重要である。

そこで、基本方針の一つに掲げた「個々の資源の連携（ストーリー性を持たせる）により魅力を高める」の具体的な取組として「テーマに基づく広域観光ルートの検討」をとりあげ、市町別ワークショップを開催することを提案する。ワークショップでは、各地域の資源の掘り起こしを行ったうえで、地域の資源を活かした地域活性化策を検討する。

また、ワークショップや検討ワーキンググループでの検討結果を公表するシンポジウムの開催などにより、幅広い地域住民への情報発信を行うことも視野に入れて検討を進める。



今後の検討方法（案）